

有珠山噴火からまもなく15年

2000(平成12)年3月31日、洞爺湖の南岸にある、西山山麓で噴火が始まりました。

有珠山の山麓にいくつもの火口ができたほか、地面の隆起や陥没、泥流の発生によって、国道や建物が崩れたり埋もれたりする被害がありました。

生活圏内での噴火でしたが、事前の避難によって直接的な人的被害を防ぐことができました。

「変動する大地との共生」をテーマにしている洞爺湖有珠山ジオパークでは、大地の変化が感じられる場所として、散策路や展示施設の利用をお薦めしています。

2000年にできた「珠ちゃん火口」は、こう変わった!



〈2001年〉

2000年の噴火から1年半ほどたっても、火口中央部から水蒸気が上がっていた。



〈2014年〉

温度が下がり、植物が生き茂ってきた。野鳥などの声も聞こえるように。



15年で、いろいろな植物がしげってきたんだね。
・・・100年たつとどんなふうになるんだろう?

生まれて100年たった森は、四十三山フットパスで見られるよ。有くん火口、珠ちゃん火口と比べると、森の成長がよくわかる散策路ね。



四十三山フットパス 入口
 (洞爺湖温泉街の東側、小有珠右の川近く)

きもなく発刊!

【ジオパーク野外学習テキストシリーズ】
『有珠山で森の誕生と変遷を学ぼう(仮)』

有珠山周辺では、噴火のたびに火口周辺の植物は埋もれてしまっていますが、長い時間をかけて再び豊かな森に成長します。あちこちに火口ができる有珠山周辺は、「森の誕生と成長」を比べながら学べる絶好のエリア。現在、ジオパークでの学習をサポートする野外学習テキストを作成中です!

